

## 5 指標と目標

計画全体の成果をはかる指標として、CO<sub>2</sub>排出量、ごみ排出量、公共交通利用者数、竜田川水質、参加人数を採用し、それぞれの目標として以下を設定しました。

なお、本計画の目標年度は平成30年（2018年）度です。

### 指標1 CO<sub>2</sub>排出量

平成30年（2018年）度の、市域全域でのCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量を、平成18年度の排出量と比べて14%削減することを目標とします。

ただし、CO<sub>2</sub>排出量の削減については、今後の国内外の情勢により、社会的な要求が大きく変っている可能性もあります。そのため、5年後の本計画見直し時期に再検討するものとします。

	現状：平成18年（2006年）度	目標：平成30年（2018年）度
生駒市からの年間CO <sub>2</sub> 排出量 （万t-CO <sub>2</sub> ）	28.7	24.7

注）「市町村別エネルギー消費統計作成のためのガイドライン」（経済産業省エネルギー庁（平成18年6月））に基づき算出

### 指標2 ごみ排出量

- ・ 家庭系ごみ：1人1日のごみ排出量を、平成30年度573g（現在の15%減）にします。
- ・ 再資源化率：生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に準じて、29.13%への向上をめざします。
- ・ 事業系ごみ：生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に準じて、6,789tに削減します。

	現状：平成19年（2007年）度	目標：平成30年（2018年）度
1人当たりごみ排出量（g/人日）	673.2	573.0
再資源化率（%）	16.84	29.13
事業系ごみ（t）	9,128	6,789

### 指標3 公共交通

- ・ 鉄道利用者数：現状維持から0.5%増を目標とします。
- ・ 路線バス利用者数：10%増を目標とします（生駒駅及び東生駒駅を発着するバス路線のみ）。
- ・ コミュニティバスなど、代替交通の新規路線数：複数ルートの実現を目標とします。

	現状：平成19年（2007年）度	目標：平成30年（2018年）度
鉄道利用者数（千人）	19,210	20,171
路線バス利用者数（千人）	5,078	5,586
代替交通の路線（本）	1	増加

## 指標 4 河川水質

- ・ 竜田川の水質が、観測地点平均（年間平均）で BOD：5mg/l 以下となることを目標とします。
- ・ 目安として、「メダカがどこでも当たり前に見られる川」

	現状：平成 19 年（2007 年）度	目標：平成 30 年（2018 年）度
阪奈道路下（mg/l）	16	5 以下
東生駒川合流前（mg/l）	10	
大宮橋下（mg/l）	9.8	
市境（mg/l）	8.0	

## 指標 5 参加人数

生駒市環境基本計画推進組織（以下、「計画推進組織（仮称）」という。）が主催、または共催する講座や行事への参加者が、10 年間の延べ人数で、生駒市の総人口（約 11 万 7 千人）と同数になることを目標とします。

## 5 つの指標の評価

以下の図は、現状を 50（基準値）として、目標値を 100 としたものです。5 つの指標をバランスよく発展させ、目標に近づくことをめざします。指標ごとの評価方法と表現については、今後設立される推進組織（第 3 章参照）で検討します。

